



駅圏店舗状況調査

一般財団法人武蔵野市開発公社

- ※1.当資料の利用や発信する情報に関連又は起因する損害につきましては、一切の責任を負いかねますのでご注意ください。
- ※2.掲載情報は、全て調査時点におけるものであり、事前に予告なく内容が変更・削除されることがありますのでご了承下さい。
- ※3.当資料はダウンロード登録者のみ閲覧可能です。
- ※4.本調査に関する検索条件及び使用ツール等については別途お問い合わせ下さい。

背景

昨今、吉祥寺駅周辺の商業者は「吉祥寺がチェーン店で溢れ、他の街と同じようになり、つまらなくなった。」という意見を耳にする機会が多くなった。

チェーン店が多くなることが他の街との同一化に繋がるのかを判断する必要性があると考え、当調査を実施することとした。

調査概要

1.調査目的

駅周辺のチェーン店の出店状況を比較し、駅圏の特性を探る。

2.調査日時

2021年11月1日(月)

3.調査対象

中央線快速及び中央・総武線各駅停車の27駅「東京駅～立川駅」

4.調査範囲

駅中心に半径約400m(徒歩5分)圏内に店舗があるチェーン店 *道路構造により実際の所要時間とは異なります。

※半径約400mはGoogle Mapから目視で抽出

※チェーン店：東京都内で2店舗以上を展開する店舗と定義(店舗検索の関係から抜け落ちている店舗が多くあると思われる。)

まとめ

中央線平均チェーン店出店数15店舗(中央値14)。吉祥寺は新宿の32店舗に次ぐ出店数の29店舗である。他の街に比べ実に倍程度のチェーン店があるという結果となった。

同業他社が集まることは、より良いサービスの提供に繋がる可能性が高いことから、この調査を通じて、吉祥寺は、「個店独自の商材が特徴的な街」というイメージに加え、チェーン店のある利便性がもたらす、「そこそこ質の良い商材が多く集まる街」という街の個性にも気づかされた。

賃料の関係からチェーン店の多くが駅に近いエリアにあり、個店が賃料の安い周辺エリアに広がる今の吉祥寺は、目的来街と+ α を高い質で満たすことの出来る街であるといえるのではないだろうか。

一般財団法人武蔵野市開発公社 担当:寺田

✉ terada@m-kaihatsukosha.or.jp